

和歌山・西庄Ⅱ遺跡

にししょう

- 1 所在地 和歌山県和歌山市西庄
- 2 調査期間 一九七八年(昭52)九月～一九七九年三月
- 3 発掘機関 和歌山県教育委員会
- 4 調査担当者 辻林 浩
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(和歌山)

西庄Ⅱ遺跡は、北側に急傾斜をみせる和泉山地を背負い、東西には小さな谷が入り込み、南側は湿地となった扇状地上に営まれている。周辺には弥生時代から平安時代の遺跡が点在している。遺跡として周知されていないかったこの地に宅地造成が計画されたため、一九七七年に試掘調査を実施したところ、中世の遺跡の存在することが判明し、翌一九七八年に和歌山県教育



委員会が事前発掘調査を実施した。その結果、鎌倉時代から江戸時代に及ぶ遺構が検出された。中世の遺構には、掘立柱建物跡・井戸・土壇・柵などがあり、これらが東西南北に溝をめぐらし、屋敷地として地割りされた区画内に配されている。木簡は、全区画内で最も優位に立つと思われる、基壇と雨落溝を有する掘立柱建物跡が位置する区画内の井戸の底近くから出土した。伴出遺物には土師質皿・庖丁の柄・曲物がある。

8 木簡の釈文・内容

(1) 〔^ノ羅阿天刑星□□令 冊〕

260×32×2 032

文字は、赤外線写真及び保存処理に際し脱色したことにより判明した。いわゆる天刑星の呪符で、欠損部分には「急々如律」の四文字が入る可能性がある。

9 関係文献

和歌山県教育委員会『西庄地区遺跡発掘調査概報Ⅰ』(一九七八年) 水野正好「西庄中世集落跡の構造と一呪符」(『和歌山県埋蔵文化財情報11』一九七八年)

(辻林 浩)